

組織目標評価報告書（令和3年度）

部局名: **埋蔵文化財調査研究センター** 部局長名: **袖山 禎之**

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<p>【教育課程に関する具体的方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博物館実習の授業を行う。構内遺跡の調査・研究成果を活かし、センター一体として実習を行うことで、実践型社会連携教育の拡充に寄与する。 <p>【教育方法に関する具体的方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博物館実習の授業は、1班10名以下の少人数制を採り、内容に対する習熟度をあげる。学生全員が発表する時間を確保し、自発的な思考や発言を促すことによって課題解決型教育に資する。 ・実習授業に際しては、SAあるいはTA1名以上を充てる。 <p>【生活支援に関する具体的方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークスタディを利用する学生を1名以上雇用し、経済的支援と同時に社会性の育成をはかる。 	<p>【教育課程・方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博物館実習の授業を行った。新型コロナ感染防止のため、グループディスカッションは行わず、個別発表に変更するなど感染対策を講じつつ対面で実施できた。 ・予定通りの実習内容を行い、目的を達成することができた。 <p>【学生支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークスタディを利用する学生については1名を雇用することができ、予定通りの内容を執行することができた。新型コロナ禍においても十分な感染対策のもと、教職員とのコミュニケーションをとりつつ勤務に従事させた。
②研究領域	研究領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<p>【目指すべき研究の方向性と水準に関する具体的方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構内遺跡の研究を中心に、国内外あるいは異分野の研究者との共同研究を4件以上実施し、国際水準の研究拠点としての活動を目指す。 ・構内遺跡の研究結果とともに、教員の個別研究をひろく外部に発信する著書、論文および口頭発表を10件以上とする。 <p>いずれも目標値については前年度よりも高く設定した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外あるいは異分野の研究者との共同研究は10件を実施した。 ・論文・口頭発表についても15件を数え、目標の10件を上回った。 <p>以上のように、昨年度より高く設定した目標値を上回る成果を挙げる事ができた。</p>
③社会貢献(診療を含む)領域	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<p>【社会との連携や社会貢献および地域を志向した教育・研究に関する目標を達成するための措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開講座3回・展示会1回を開催し、構内遺跡の調査をはじめとする研究成果を積極的に公開・発信し、大学から社会に向けて知の還元を図る。オンラインを活用して、参加者の幅をひろげ増員に務める。 ・地域の埋蔵文化財に関する事案について指導的な助言を行い、地方公共団体等の埋蔵文化財行政に寄与する。教員評価の新基準に合わせ、指標は2件以上とする。 ・『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要2020』・『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報』66号・67号を刊行し、本センターの調査研究活動を積極的にかつわかりやすく社会に還元する。 <p>【情報公開等や情報発信等の推進に関する目標を達成するための措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの更新を積極的に実施し、情報発信に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度後半に計画した公開講座は新型コロナの流行状況を鑑み、すべてオンラインでの開催とした。Zoomミーティングを利用した講座とし、第14・15回では各回2名の講師に1本ずつ、第16回は1名の講師に2本の講座を担当する形とした。 ・オンライン開催としたことで、毎回新たな参加者を日本全国から得ることができ、海外からの問い合わせもあったことから、これまでよりも幅広い参加者に構内遺跡をはじめとする研究の成果を還元できた。 ・キャンパス発掘成果展については展示準備は実施したものの、今年度中の公開は新型コロナ禍のため見送ることとした。次年度に公開する機会を検討する。 ・地方公共団体等への指導・助言は3件を実施した。 ・刊行物を滞りなく、予定通り刊行した。
④管理運営領域	管理運営領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<p>【外部研究資金・寄付金その他自己収入の増加に関する目標を達成するための措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科研費の申請100%以上、採択率50%以上を目指し、外部研究資金の獲得に資する。 ・公開講座の有料化を継続し、自己収入の増加に資する。参加者数は合計で100名以上を目指す。 <p>【施設設備の整備・活用に関する目標を達成するための措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター建物の老朽化に対して適切な修繕を行うことで、長期使用に備える。 <p>【安全管理に関する目標・法令遵守等を達成するための措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種法令遵守を徹底するため、それぞれに担当を決めて、毎月の会議で注意喚起を行う。 ・文化財保護法に則り、構内遺跡に対して、建設工事に伴う発掘調査や立会調査を適切に実施する一方、発掘調査報告書作成のための整理作業を進め、発掘調査報告書1冊の刊行につなげる。また出土遺物・資料については適切な保管・管理を行う。 ・文明動態学研究所への移行に向け、将来構想を見据えた検討を行う。 	<p>【外部資金の獲得】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科研費の申請率は100%以上、採択率は50%である。 ・公開講座はオンラインのみでの開催としたため、当初予定していた受講料収入は0であった。一方オンラインでの有料化を進める準備として、参加費の徴収方法の多様化について事務方に働きかけた結果、次年度より口座振り込みが新たな入金方法として選択できるようになったことは特筆すべき成果である。 <p>【安全管理・法令順守】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべて滞りなく実施できた。 <p>【組織統合に向けた準備】</p> <p>令和4年度4月1日に文明動態学研究所と統合するに向け、規定・予算をはじめ、教員選考や各種事務的項目について検討し、スムーズな統合を目指している。</p>
⑤センター・機構等業務	センター・機構等業務における目標の達成状況
<p>【施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学の施設整備計画に応じて、発掘調査を実施する。 ・発掘報告書の刊行を確実に進行。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鹿田地区1件、津島地区1件の発掘調査を実施した。 ・発掘調査報告書は、「鹿田遺跡16」(岡大病院中央診療棟)1冊を刊行した。